



埼玉県舞踊協会ニュース

埼玉県舞踊協会
NO.47

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：中村 友美
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

『新元号の年を迎えて』

埼玉県舞踊協会会長
中村友美

協会の皆様には新年度を迎えられるご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。昭和42年(1967)に創立した埼玉県舞踊協会は昭和・平成を歩み平成最後の1/27「ダンスセッション2019」3/3「バレエ・モダンダンスフェスティバル」を皆様のご支援、ご協力を頂き無事盛況に終えることが出来ました。深く御礼申し上げます。先人の築き上げた52年の歴史

をこの急激な世の中の変化の中、如何に歩むべきか会員皆様と審議し改革せねばならぬと思ひます。

新年号スタートの行事は協会、一大イベント第52回目となる埼玉全国舞踊コンクールです。埼玉会館にてクラシックバレエ部門、創作部門を7/26、31、モダンダンス部門を8/16、21に開催致します。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

新元号に埼玉県舞踊協会の革新を願うクラシックバレエ、モダンダンスが両輪となり新時代を歩み更なる発展を期待しております。



「Three-in-one」
ダンスセッション2019
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
「フローラの目覚め」

ダンスセッション2019を終えて

制作チーフ 窪内絹子

二年がかりでの企画のダンスセッション、まず今回も無事に終えられましたことを担当者の先生方、協会の先生方、スタッフの皆様として振付家の先生、出演者の皆様全ての方々に感謝申し上げます。次から次へと振りかぶって来る様な仕事に黙々と立ち向かって1月27日(日)の本番を迎え、2回公演を無事に終える事が出来ました。

今回はクラシックバレエの方が場面も多く、役も分かれていた事と、出演者も54名という大掛かりの中、突然の予定変更で14名のロシアダンサーが来られなくなるというハプニング等が

方に担当者の先生方が寄り添いサポートしての3か月間があったの公演だったと思ひます。芸術劇場のリハーサル室を1か月も使用させて頂きましての稽古、振り付けなんて本当に考えられない様な恵まれた幸福な環境でした。芸術劇場の提携でなければ考えられないことです。心から有り難く思っております。

この様な舞台経験から若いダンサー達が何かを感じ、何かを掴み、どんどん羽ばたいて行ってくれたらこれ程の喜びはないように思ひます。舞踊を愛する「人間を育てる」、これが埼玉県舞踊協会の目指し、引き継がれたものであり協会の役目の様な気が致します。

アレクサンドル・ミシューチン氏の「フローラの目覚め」と、平山素子氏の「Three-in-one」の作品につきましては専門家の先生方が、批評を書いて下さりこの新聞にも掲載されておりますので是非、そちらの方をお読み下さい。

この文章は協会の先生方や担当者の先生方のご苦勞や御力添えでこの様な素晴らしい舞台が出来上がりました事に感謝を込めて書かせて頂きました。本当に2年間という長い月日有難うございました。

あり、先生方は役替わりや振り付けの教え直しと大変な思いをされたのではないかと思ひます。しかし、不思議なもので問題点が起これば起きたて皆が一丸となつて対応したり解決の道を見つけて前へと進んで行けるのも協会の先生方のご協力あつてのものだったと改めて感じ感謝の言葉しかみつかりません。

埼玉県舞踊協会は、協会が出来た時からクラシックとモダンが一緒で一つの協会としてやってきています。その形は今までもずっと引き継がれて来ております。一つの問題が起これば皆で考え、行動、解決という形をやつて参りました。これからのこの進みで進んで行くことと思ひます。とにかく、振り付けの先生

「Three-in-one」は男女6人が緊張感のある群舞が展開され、第51回のたけだ有里作品「息もできない夜に蚪(とぶ)ぶ」は女性3人で夏の間だけ生きる蟬の姿に命の尊さへの思いを重ねる。

平山素子振付「Three-in-one」には公募で集った男女28名が出演した。表題は「3つ成り立つ」なりの意味で、「3つ」のものをオリジナルの身体語彙として提案することを目指しています。「と平山は述べている。ソロやデュエツト、アンサンブルをさまざまに組み込み、「振り付けを付けた」というよりもダンサーたちから内発的に生まれる動きを生かしたように、皆で反時計回りに駆け抜ける場面が何度も入り、独特の律動感をもたらした。音楽の落合敏行、衣裳の宮村泉、照明デザインの前田武頭も無駄のない仕事ぶり、平山と出演者たちが相互に作用しながら生成する創作を支えている。

アレクサンドル・ミシューチン氏の「フローラの目覚め」はドリゴ作曲、プティパ原振付により1894年に初演された一幕物で古代の神話に取材した壮麗な佳品だ。ステパノフの記譜法で遺されたものをベースに往時のロシア・バレエの香りを伝えた。風格のある春の女神フローラ(プリアート国立歌劇団バレエ団のアンナ・ペドゥシノーヴァ)は、しなやかな身のこなしが美しい西風の神ゼフィール(浅田良和)を中心に踊りに次ぐ踊りを滞りなくみせる。埼玉の踊り手も暁の女神の佐藤優美を筆頭に役柄を踏まえて踊っているのが好ましい。

今回も彩の国さいたま芸術劇場と提携しており、世界に知られる同劇場の奥行きがあり設備も

充実した本格舞台をよく生かした公演だった。埼玉県舞踊協会は埼玉の文化力発信に多大な貢献を果たしている。

隔年毎に開催の「ダンスセッション2019」が、1月27日(日)彩の国さいたま芸術劇場大ホール(2回公演)で開催された。毎回埼玉県舞踊協会が、海外から舞踊家を招聘し国際交流を図り、新しいダンスの創造、育成等意義ある公演をさいたま芸術劇場を拠点に発信する企画で取り組んでいる。

先ず埼玉県全国舞踊コンクール創作部門第1位作品(第50回)「elastic」伸縮性のある「藤井淳子作品」(第51回)「息もできない夜に蚪(とぶ)ぶ」たけだ有里作品が披露され、作品テーマを心に据え、独自性を発揮した2作品が、観客の注目を浴びた。次にモダンダンス平山素子振付作品「Three-in-one」が上演された。吊り下がったライトを大きく揺らし、床に照らされた光の偶然を捕らえるシーンが始まり(最後も揺れるライトで締め括られる)、偶発が作品イメージの大きな要素に在る事が提示される。ダンサーが勢よく円陣を走り出すと、ダンサーの日常が喚起される(途中幾度かくり返される)。個が止まった地点、その時々瞬間にみせる感性の偶意を挿入しながら、床エリアの群舞へと進行し、びっしり転がる群の中、数人が各々動きを繰り返して踊る場や、寄り合って繋がる腕の動きの面白さに夢を託す等、群舞ならではの演出効果高め、振付者、ダンサー、観客が共に創造を楽しむ創作ダンス作品が劇場を満ちた。

「第50回創作1位藤井淳子」
「第51回創作1位たけだ作品」

「Three-in-one」振付 平山素子
私は4年ほど前にさいたま市に移住し、良きタイミングで埼玉の芸術普及・発展に役に立てないかと考えていましたので、今回の振付のオフアワーは私のミッションとすら感じてお受けしました。コンテンプラリーダンスとは、幅広い身体表現を可能にできるジャンルですが、その反面で「ルールがなく、なにを積み上げていくのかよくわからない」とみられるジャンルではないかと。そこで、本作品でも28名のダンサーとともに3つのものをオリジナルの身体語彙として提案することを試みたいという「Three-in-one」とタイトルを付けました。言葉通りにとらえる「3つ成り立つ」、などの意味で使用されますが、最終的にはこの作品のクリエイションを通して、舞踊という現象を誘発する振付、それを乗り越えて衝動の中に浸されていくダンサーの身体、そんなものにシンプルに出会いたいというハルを繰り返しました。気が付けば、延べ250時間以上もリハーサル室にいたことになりました。この経験を通して私自身も「振付」とは何か?と改めて考える機会となりました。素晴らしい経験だったので、さいたま芸術劇場との提携によりリハーサル場所の提供を十分に受けられたことです。これは本企画の大きな特徴であり価値であると思ひます。このサポートがなければ私の作品の結果は違つものになっていたでしょう。本番はあつたという間に駆け抜けてしまいましたが、ダンサーたちとの深い絆、そして、埼玉県舞踊協会の皆様の深い愛を感じる公演となりました。

「Three-in-one」は男女6人が緊張感のある群舞が展開され、第51回のたけだ有里作品「息もできない夜に蚪(とぶ)ぶ」は女性3人で夏の間だけ生きる蟬の姿に命の尊さへの思いを重ねる。

平山素子振付「Three-in-one」には公募で集った男女28名が出演した。表題は「3つ成り立つ」なりの意味で、「3つ」のものをオリジナルの身体語彙として提案することを目指しています。「と平山は述べている。ソロやデュエツト、アンサンブルをさまざまに組み込み、「振り付けを付けた」というよりもダンサーたちから内発的に生まれる動きを生かしたように、皆で反時計回りに駆け抜ける場面が何度も入り、独特の律動感をもたらした。音楽の落合敏行、衣裳の宮村泉、照明デザインの前田武頭も無駄のない仕事ぶり、平山と出演者たちが相互に作用しながら生成する創作を支えている。

アレクサンドル・ミシューチン氏の「フローラの目覚め」はドリゴ作曲、プティパ原振付により1894年に初演された一幕物で古代の神話に取材した壮麗な佳品だ。ステパノフの記譜法で遺されたものをベースに往時のロシア・バレエの香りを伝えた。風格のある春の女神フローラ(プリアート国立歌劇団バレエ団のアンナ・ペドゥシノーヴァ)は、しなやかな身のこなしが美しい西風の神ゼフィール(浅田良和)を中心に踊りに次ぐ踊りを滞りなくみせる。埼玉の踊り手も暁の女神の佐藤優美を筆頭に役柄を踏まえて踊っているのが好ましい。

今回も彩の国さいたま芸術劇場と提携しており、世界に知られる同劇場の奥行きがあり設備も

充実した本格舞台をよく生かした公演だった。埼玉県舞踊協会は埼玉の文化力発信に多大な貢献を果たしている。

隔年毎に開催の「ダンスセッション2019」が、1月27日(日)彩の国さいたま芸術劇場大ホール(2回公演)で開催された。毎回埼玉県舞踊協会が、海外から舞踊家を招聘し国際交流を図り、新しいダンスの創造、育成等意義ある公演をさいたま芸術劇場を拠点に発信する企画で取り組んでいる。

先ず埼玉県全国舞踊コンクール創作部門第1位作品(第50回)「elastic」伸縮性のある「藤井淳子作品」(第51回)「息もできない夜に蚪(とぶ)ぶ」たけだ有里作品が披露され、作品テーマを心に据え、独自性を発揮した2作品が、観客の注目を浴びた。次にモダンダンス平山素子振付作品「Three-in-one」が上演された。吊り下がったライトを大きく揺らし、床に照らされた光の偶然を捕らえるシーンが始まり(最後も揺れるライトで締め括られる)、偶発が作品イメージの大きな要素に在る事が提示される。ダンサーが勢よく円陣を走り出すと、ダンサーの日常が喚起される(途中幾度かくり返される)。個が止まった地点、その時々瞬間にみせる感性の偶意を挿入しながら、床エリアの群舞へと進行し、びっしり転がる群の中、数人が各々動きを繰り返して踊る場や、寄り合って繋がる腕の動きの面白さに夢を託す等、群舞ならではの演出効果高め、振付者、ダンサー、観客が共に創造を楽しむ創作ダンス作品が劇場を満ちた。

「Three-in-one」は男女6人が緊張感のある群舞が展開され、第51回のたけだ有里作品「息もできない夜に蚪(とぶ)ぶ」は女性3人で夏の間だけ生きる蟬の姿に命の尊さへの思いを重ねる。

平山素子振付「Three-in-one」には公募で集った男女28名が出演した。表題は「3つ成り立つ」なりの意味で、「3つ」のものをオリジナルの身体語彙として提案することを目指しています。「と平山は述べている。ソロやデュエツト、アンサンブルをさまざまに組み込み、「振り付けを付けた」というよりもダンサーたちから内発的に生まれる動きを生かしたように、皆で反時計回りに駆け抜ける場面が何度も入り、独特の律動感をもたらした。音楽の落合敏行、衣裳の宮村泉、照明デザインの前田武頭も無駄のない仕事ぶり、平山と出演者たちが相互に作用しながら生成する創作を支えている。

アレクサンドル・ミシューチン氏の「フローラの目覚め」はドリゴ作曲、プティパ原振付により1894年に初演された一幕物で古代の神話に取材した壮麗な佳品だ。ステパノフの記譜法で遺されたものをベースに往時のロシア・バレエの香りを伝えた。風格のある春の女神フローラ(プリアート国立歌劇団バレエ団のアンナ・ペドゥシノーヴァ)は、しなやかな身のこなしが美しい西風の神ゼフィール(浅田良和)を中心に踊りに次ぐ踊りを滞りなくみせる。埼玉の踊り手も暁の女神の佐藤優美を筆頭に役柄を踏まえて踊っているのが好ましい。

今回も彩の国さいたま芸術劇場と提携しており、世界に知られる同劇場の奥行きがあり設備も

充実した本格舞台をよく生かした公演だった。埼玉県舞踊協会は埼玉の文化力発信に多大な貢献を果たしている。

隔年毎に開催の「ダンスセッション2019」が、1月27日(日)彩の国さいたま芸術劇場大ホール(2回公演)で開催された。毎回埼玉県舞踊協会が、海外から舞踊家を招聘し国際交流を図り、新しいダンスの創造、育成等意義ある公演をさいたま芸術劇場を拠点に発信する企画で取り組んでいる。

「Three-in-one」振付 平山素子
私は4年ほど前にさいたま市に移住し、良きタイミングで埼玉の芸術普及・発展に役に立てないかと考えていましたので、今回の振付のオフアワーは私のミッションとすら感じてお受けしました。コンテンプラリーダンスとは、幅広い身体表現を可能にできるジャンルですが、その反面で「ルールがなく、なにを積み上げていくのかよくわからない」とみられるジャンルではないかと。そこで、本作品でも28名のダンサーとともに3つのものをオリジナルの身体語彙として提案することを試みたいという「Three-in-one」とタイトルを付けました。言葉通りにとらえる「3つ成り立つ」、などの意味で使用されますが、最終的にはこの作品のクリエイションを通して、舞踊という現象を誘発する振付、それを乗り越えて衝動の中に浸されていくダンサーの身体、そんなものにシンプルに出会いたいというハルを繰り返しました。気が付けば、延べ250時間以上もリハーサル室にいたことになりました。この経験を通して私自身も「振付」とは何か?と改めて考える機会となりました。素晴らしい経験だったので、さいたま芸術劇場との提携によりリハーサル場所の提供を十分に受けられたことです。これは本企画の大きな特徴であり価値であると思ひます。このサポートがなければ私の作品の結果は違つものになっていたでしょう。本番はあつたという間に駆け抜けてしまいましたが、ダンサーたちとの深い絆、そして、埼玉県舞踊協会の皆様の深い愛を感じる公演となりました。

「Three-in-one」は男女6人が緊張感のある群舞が展開され、第51回のたけだ有里作品「息もできない夜に蚪(とぶ)ぶ」は女性3人で夏の間だけ生きる蟬の姿に命の尊さへの思いを重ねる。

平山素子振付「Three-in-one」には公募で集った男女28名が出演した。表題は「3つ成り立つ」なりの意味で、「3つ」のものをオリジナルの身体語彙として提案することを目指しています。「と平山は述べている。ソロやデュエツト、アンサンブルをさまざまに組み込み、「振り付けを付けた」というよりもダンサーたちから内発的に生まれる動きを生かしたように、皆で反時計回りに駆け抜ける場面が何度も入り、独特の律動感をもたらした。音楽の落合敏行、衣裳の宮村泉、照明デザインの前田武頭も無駄のない仕事ぶり、平山と出演者たちが相互に作用しながら生成する創作を支えている。

アレクサンドル・ミシューチン氏の「フローラの目覚め」はドリゴ作曲、プティパ原振付により1894年に初演された一幕物で古代の神話に取材した壮麗な佳品だ。ステパノフの記譜法で遺されたものをベースに往時のロシア・バレエの香りを伝えた。風格のある春の女神フローラ(プリアート国立歌劇団バレエ団のアンナ・ペドゥシノーヴァ)は、しなやかな身のこなしが美しい西風の神ゼフィール(浅田良和)を中心に踊りに次ぐ踊りを滞りなくみせる。埼玉の踊り手も暁の女神の佐藤優美を筆頭に役柄を踏まえて踊っているのが好ましい。

今回も彩の国さいたま芸術劇場と提携しており、世界に知られる同劇場の奥行きがあり設備も

充実した本格舞台をよく生かした公演だった。埼玉県舞踊協会は埼玉の文化力発信に多大な貢献を果たしている。

隔年毎に開催の「ダンスセッション2019」が、1月27日(日)彩の国さいたま芸術劇場大ホール(2回公演)で開催された。毎回埼玉県舞踊協会が、海外から舞踊家を招聘し国際交流を図り、新しいダンスの創造、育成等意義ある公演をさいたま芸術劇場を拠点に発信する企画で取り組んでいる。

前号でご紹介が出来ませんでした、「第45回ステージ1」公演の舞台写真を掲載致します。



STAGE1
第45回 ステージワン
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
2018年9月1日・2日

踊ること

文月 玲

私がバレエを始めたのは2歳9か月、母に連れられ間瀬玉子先生にお世話になりました。支度が遅い私は、パーの先頭でないへとそを曲げていたそうです。わがままで気が強い私を、母と玉子先生は根気強くなだめるように育てて下さいました。今私のような生徒を見ると、感謝の気持ちでいっぱいになります。おとなしい子がいい子ではないと、父兄にも自分にも言い聞かせています。しかしながら良い芽を摘み取らずに伸ばしてあげることは、非常に難しいことです。

踊ることは楽しいこと。熱があっても足が痛くても何があっても踊っていました。私が踊る事で両親や先生が喜んで下さる。それが私の幸せでした。小学4年より牧阿佐美先生の児童バレエに通い始めました。ちょうどテレビドラマでゆうきみほさんが赤い靴に出演していた頃です。初日は母と一緒に行きましたが、2日目は一人でいきたいとワクワクしながら冒険の旅に出ました。案の定、帰りの電車を乗り間違えて赤羽から東北線に乗ってしまいました。大宮から景色の違う事に気が付いた私は慌てて蓮田で飛び降りました。物凄く遠くに来てしまった気がして不安でたまらなかった気持ちを今でもハッキリと覚えています。

中学2年の冬、どうしてもスケートをやってみたくて白久のスケート場に行きました。数日後にフェスティバルのコンクール受賞者の披露が決まっていたにもかかわらず、まんまと捻挫してしまいました。野呂先生にこっぴどく怒られたことよりも、自分に腹が立って情けなくて、欠場はせずに痛み止めの注射を足の指すべてに打って出演しました。本当に痛かったので、これで少しは自分を許してあげられたのかも知れません。

踊るといふことは、褒めていただく、認めていただく、楽しんでいただく、そのために日頃の努力やいざという時の勇気、様々な困難を乗り越えていく冒険です。そして自分を褒めるのは冒険の魔法の言葉です。舞踊協会の先輩方を見習って、私の終わりのない旅はまだまだ続きます。一人旅のようで、気が付くと沢山の仲間。踊りに出会えて本当に良かった。さあ、次は何を踊ろう。

○青木りえ
この度、平成30年7月より理事を引き受けることになりました。責任の大きさに身の引き締まる思いでおります。微力ではございますが、伝統ある埼玉県舞踊協会の発展のために全力を尽くしたいと決意を新たにしております。行き届かない点も多々あるかと思いますが、役員の方々にご指導いただきながらお役目を果たして参りたいと思っております。協会員の皆様には変わらぬ温かいご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

○すきさよこ
先日携帯を忘れて三日間帰省しました。なんと手持ち無沙汰。どれだけ日常にならなくてはない存在になつていくか実感でもわざわざ忙しくしてしまっている危なさを感じました。もっと周りを見てもう少しゆっくりじっくり考えて日々過ごさなくてはと思つている頃です。この度、理事として関わることになり、不安もありませんが、長年育てていただいた協会の発展のために、又充実した舞台づくりに目指しお手伝いできることに感謝しながら、努めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

■新理事からのメッセージ
埼玉舞踊協会では、第7回目の「バレエ・モダンダンス公演」に初めて出演してからは毎年のように、舞台上に立たせて頂いていました。その後、ステージ・コンクールなど数々の舞台を経験し、ダンサーとしても育てて頂いた場所でもあります。諸先生方には、大変お世話になって参りました。これからは、少しでも力になれるようお手伝いが出来ましたらと思っております。で、宜しくお願い申し上げます。

○小柳出加代子
この度理事会での承をいただき入会を承りました。若松津田由生先生にお礼申し上げます。先方にお礼申し上げます。若松先生が8年、津田先生が3年になりました。数年前より、色々な方々にお目にかかると、今若松のスタジオはどなたか残して下さいます。若松先生が残り下さいます。古場を5名で年一回の発表会を軸に維持しております。若い講師も育っています。

私には10代の頃より埼玉舞踊協会には大変お世話になりました。ステージ、コンクール、その他色々な行事に参加しました。大変貴重な経験をさせていただきました。返しができればと思っております。宜しくお願ひ致します。

■新会員からのメッセージ
制作チーフ 板沢寿美
第52回バレエ・モダンダンスフェスティバルを無事終了する事が出来ました。ご参加下さった先生方、お手伝い下さった先生方、お陰と担当一同心から感謝しております。ありがとうございます。

皆様の「ご要望」に添えるべく、毎年努力・工夫しておりますが、なかなか完璧とまでは至らず、課題は残ります。それでも反省会で「生徒達からも喜んでいました。」とお言葉を励みに来年度3月1日に向けて始動致しております。また大勢の皆様にお会いできます事をお願いいたします。



第52回 バレエ・モダンダンスフェスティバル
2019.3.3(日) 埼玉会館 大ホール
©スタッフテス 本橋 亜弓

「伸びゆく彩の国さいたまの児童達が踊るフェスティバル」は多彩な内容で楽しませてもらった。舞踊協会の先輩方を見習って、私の終わりのない旅はまだまだ続きます。一人旅のようで、気が付くと沢山の仲間。踊りに出会えて本当に良かった。さあ、次は何を踊ろう。

「伸びゆく彩の国さいたまの児童達が踊るフェスティバル」は多彩な内容で楽しませてもらった。舞踊協会の先輩方を見習って、私の終わりのない旅はまだまだ続きます。一人旅のようで、気が付くと沢山の仲間。踊りに出会えて本当に良かった。さあ、次は何を踊ろう。

埼玉県民芸術文化祭2019協賛
第52回 埼玉全国舞踊コンクール2019
《会場》埼玉会館 大ホール
■クラシックバレエ部門・創作舞踊部門 《日時》7月26日(金)～31日(水)
■モダンダンス部門 《日時》8月16日(金)～21日(水)
《主催》埼玉県舞踊協会

期日	大ホール
7/26(金)	クラシックバレエ1部 予選・創作舞踊部門 予選
27(土)	クラシックバレエジュニア部 予選
28(日)	クラシックバレエ2部 予選
29(月)	クラシックバレエジュニア部 決選
30(火)	クラシックバレエ2部 決選
31(水)	クラシックバレエ1部 決選・創作舞踊部門 決選・表彰式
8/16(金)	モダンダンス2部 予選
17(土)	モダンダンス2部 決選
18(日)	モダンダンスジュニア部 予選
19(月)	モダンダンスジュニア部 決選
20(火)	モダンダンス1部 予選
21(水)	モダンダンス1部 決選・表彰式

「平成」から「令和」。新年号の協会ニュースになります。皆様にとりましては、日々をどのように、迎えられましたでしょうか。会員の皆様にも、素晴らしいスタートとなりますように。

○編集後記
「平成」から「令和」。新年号の協会ニュースになります。皆様にとりましては、日々をどのように、迎えられましたでしょうか。会員の皆様にも、素晴らしいスタートとなりますように。

コレオグラファーの目vol.18
「足袋nce@能楽堂」
FINAL ～五感～
2019年10月6日(日) 16:30開演
こしがや能楽堂
チケット:2,500円 全自由席
出品者・出演者募集!!

協会員催し物のご案内
2017年4月～10月
アキコカンダンスカンパニー公演
「時は流れ、ヒアソラを踊る」
5/5(土) 13:30・17:30
5/12(日) 13:30・17:30
東京芸術劇場 シアター・イースト
048(645)6551 市川紅美
第19回伊藤君子バレエスタジオ定期発表会
7/15(月祝) 15:30
埼玉会館 大ホール
049(233)6244 伊藤京子
フジサトバレエスタジオ第61回発表会
9/15(日) 15:30
練馬文化センター 大ホール
03(3995)2218 藤里照子